

不退院縁起

元禄7年(1694)盛岡淨土宗円光寺の中興良觀喜微和尚が、同年の凶作により出たあまたの埋葬された、北上川浮島(現在の明治橋上流100m西岸)に草庵を造り、埋葬された餓死者の靈を供養するため、千日の別時念佛を修行し、大いに町民を勸化したのがその始めといわれる。

正徳6年(1716)前記の草庵に旧十三日町星山屋元祖の寄贈による阿弥陀如来を本尊として安置し「千日堂不退院」と称した。



不退院本尊阿弥陀如来と両大師

その後、何回かの修復工事が行われたことは、残された棟板によって知ることができるが明治29年(1896)老朽甚だしく、不退院の本堂は取り壊しとなり、もともと檀家もなく再建されないまま、虚空蔵堂内に本尊等が安置され、今日に至っている。